



# 啖啄同機

若松原中学校学校だより  
第2号  
令和6年5月17日  
発行者 永井高穂



令和6年度スローガン 「挑み 鍛え 前へ」

上記QRコードより、「若松原中学校」ホームページもご覧ください。

## PTA 総会・授業参観・保護者会 お世話になりました



授業参観



冒険活動の説明（放送）



授業参観



前会長さん《お疲れさまでした》



R6 執行部員さん



《今年一年よろしくお願いします》 専門部長さん

5/2（木）には多くの保護者の方ご来校し、生徒の授業の様子を見ていただきありがとうございました。また、PTA 総会では、役員の方々に準備から当日の進行等まで大変お世話になりました。保護者会では、各学年主任の話や担任の先生からの学年、学級経営方針をご理解いただきありがとうございます。何かありましたら、いつでもご相談いただくとありがたいです。

### 【お知らせ】 令和6年度 教科書展示会の開催につ いて

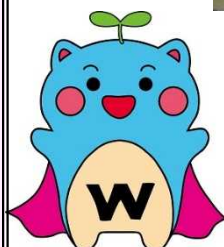
教科書展示会は、一般公開を通じて、地域住民等の多くの方々に認識の機会を提供し、教科書に対する関心を高めることを目的に毎年開催されています。

6月21日（金）

～7月12日（金）

9:00～17:00（平日）

会場：栃木県庁河内庁舎  
2F B棟研修室



### エネルギーな若中生

5/13（月）に総合訪問がありました。これは、教育長や教育委員事務局の方々が、中学校を訪問し、生徒が安全・安心に学校生活を送っているか、どのように授業に取り組んでいるかを見たり、学校経営や先生方の授業についてご指導いただくものです。生徒は、明るい元気な挨拶したり授業に積極的に取り組んだり、訪問された先生方は口々に、若中の生徒は活気がありエネルギーだと褒めていただきました。



## 『思春期の子供たちとどう接する？』

思春期の子供たちに必要なことは、シリツです。シリツには、「自律」と「自立」の2つありますが、それらは持続的に何かをやり遂げる力であり、自分と向き合えるようになることです。生徒がしっかりと自分と向き合えるようになることは、自分を理解することです。そのために、普段の様々ななかかわりの中で、私たち大人は、次のことを教える必要があります。

- ① 自分には生きる価値がある。
- ② 人生は自分次第である。
- ③ 周囲と良い関係を持つために自分を表現する。
- ④ 自分をコントロールする。
- ⑤ 意識して自分で選択する。
- ⑥ 異質な物を受け入れる力をつける。

「中学生になったから・・・，もう中学生だから・・・，自立するんだから・・・。自分のことは自分でしなさい。」子供が中学生になると、早ければ小学生も高学年になると、親としてよく口にする言葉ではないでしょうか。しかしちょっと立ち止まって聞いてください。

そのための生きる力は、学校生活の中の集団生活を通してはもちろんのこと、家庭や地域の中においても、教えるべきことを教えられてのことです。教えるべきことを教え、自分で選択させ、自分で選択したことに責任が伴うことを学ばせる。集団の中で、自分を表現し、コントロールし、異質なものも受け入れる器を作り上げる。そのためには、大人の関わり・教えが不可欠であることを再確認してください。

ましてやコロナ禍により現在の中学生は、集団生活や家族をはじめとした周囲の人々との様々な関わりが失われて今があります。だからこそ、経験していないことは一つ一つ経験しながら学んでいくしかないのです。今、子供たちが苦しくなるのはある意味当たり前です。そこまでの成長をしていないのに、教えてもらっていないのに自分で判断してやりなさいと言われてしまうのですから。

今年は、子どもたちが様々な人と関われる場を多く設定していきますので、関わる私たち大人は時には言葉で、時には背中であげていきましょう。思春期とは、子どもたちが変化を遂げる時期です。私たち大人は、関わりの中から変化する子どもたちを支援していきましょう。

### 咲き誇るバラ

学校の東門のところにバラ園があります。地域の方々が毎年、除草等のお世話をしてくださり、今年もこの5月、色鮮やかに咲き誇りました。今年は、PTAや生徒もこのバラ園の管理を地域の方と一緒にしていこうと考えています。

